

# ひらがな学習入門期幼児の書字特性の検討 —鏡文字についての検討—

(指導教員 世木 秀明 准教授)  
世木研究室 0831146 三浦 淳美

## 1.はじめに

就学前の幼児期の文字の読み書きにおいて、文字の書字誤りはさまざまな形で表れる。中でも鏡文字は最も多く出現する書字誤りの特徴とされている。

このような、鏡文字による書字誤りの原因についての研究はほとんどされていないが、文字を図形から文字として捉え始める時期(音韻意識のめばえ)と鏡文字の出現時期が対応しているのではないかと考えられている。

そこで本研究では、書字誤り(鏡文字)が出現する原因、鏡文字となる文字の特性について音韻意識の発達との対応を踏まえて検討することを目的とした。

## 2.作業仮説

本研究では、平仮名学習入門期の幼児に対して次の作業仮説を立てて実験を行った。

- 1.鏡文字になりやすいとされる文字および、なりにくいとされる文字の正字の音読潜時は変わらない。
- 2.鏡文字になりにくいとされる文字の鏡文字の音読潜時は、鏡文字になりやすいとされる文字の鏡文字の音読潜時に比べ長い。

## 3.実験用刺激

実験用刺激は、鏡文字になりやすいとされる文字(鏡文字群)15文字と鏡文字になりにくいとされる文字(対照群)11文字および、これらを鏡文字にした文字とした。以下にそれぞれの文字刺激を示す。

- ・鏡文字になりやすいとされる文字(鏡文字群)  
か、き、く、ぐ、さ、せ、と、よ、し、じ、の、つ、や、5、6
- ・鏡文字になりにくいとされる文字(対照群)  
も、り、ろ、ん、け、て、わ、ね、3、7、9

## 4.実験方法

実験用刺激を信号音提示後にランダムにノートパソコンの13.3インチ液晶ディスプレイに提示し、被験者に読み上げさせた。さらに、音読潜時を測定するために信号音と被験者の音読音声をICレコーダに保存した。被験者は、視力聴力ともに健康な幼児19名、20歳代成人20名である。

## 5.音読潜時測定方法

実験用刺激に対する音読潜時の測定は、視覚刺激提示の信号音とともにマイクで音読音声を録音し、録音された刺激提示開始を示す信号音から被験者

の発話開始までの時間を音声分析プログラム(Wave Surfer)のサウンドスペクトログラム表示を利用して目視により測定した。

## 6.実験結果

図1に平仮名学習入門期幼児の文字の種類別音読潜時を示す。

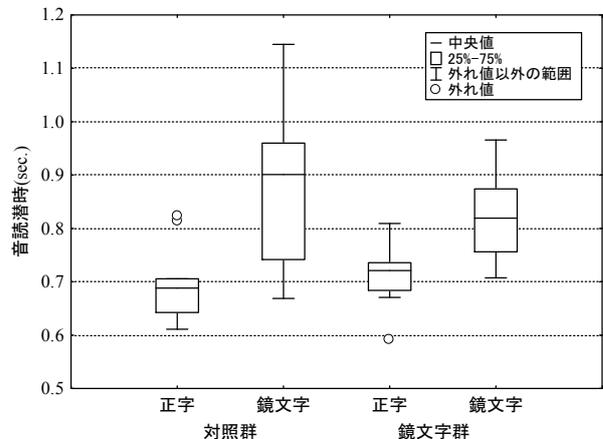


図1 平仮名学習入門期幼児の文字種類別音読潜時

図1に示す実験結果より、対照群、鏡文字群いずれにおいても正字と鏡文字の音読潜時には、1%の有意水準で有意な差が認められた。しかし、対照群と鏡文字群の正字の音読潜時間、対照群と鏡文字群の鏡文字の音読潜時間には有意な差は認められなかった。また、対照群と鏡文字群の鏡文字の音読潜時のばらつきは、両群の正字の音読潜時よりも大きく、対照群の鏡文字が最も大きい結果となった。一方、20歳代成人の音読潜時は、対照群と鏡文字群の正字、鏡文字いずれにおいても幼児に比べ速くばらつきも小さいことに加え、対照群と鏡文字群の正字と鏡文字の音読潜時の統計的な差は幼児よりも大きいことが観測された。

## 7.まとめ

実験の結果から、実験前に立てた作業仮説1は支持される結果が得られたが、作業仮説2に関してはさらに検討が必要であると考えられた。

また、20歳代成人では対照群と鏡文字群の正字と鏡文字の音読潜時の統計的な差が幼児よりも大きいことが観測されたことから、20歳代成人は刺激文字を音韻化して捉えているのに対して幼児は、音韻化して捉えるよりも、図形の一つとして捉える傾向が強いのではないかと考えられた。